

令和5年度 静岡大学人文社会科学部  
社会人選抜（第1期）試験問題

法学科 [小論文] (SH)

令和4年11月26日(土)  
10時00分～11時30分

注意事項

1. 解答始めの合図があるまで、この冊子を開いてはいけません。
2. 解答始めの合図の後、下段に記載の枚数のとおり問題用紙・解答用紙・下書用紙があるか確認してください。
3. 解答を始める前に、解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。解答用紙に氏名を記入してはいけません。
4. 試験終了後も監督者が許可するまで退室しないでください。
5. 問題用紙及び下書用紙は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰ってはいけません。

問題用紙（この表紙を除く） . . . 5枚  
解答用紙 . . . 2枚  
下書用紙 . . . 2枚

『答案作成の注意事項』

1. 書き出しは、一マスあけない。
2. 改行したら、一マスあける。
3. 読点には「、」を使用し、句点には「。」を使用し、それぞれ一マスとする。ただし、行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
4. 小さな「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」は一マスで使う。
5. 数字と英字の書き方は、下の例に従い、二文字で一マスを使う。  
数字例：123であれば、「12」と「3」で二マス使用。  
英字例：abcであれば、「ab」と「c」で二マス使用。

問題 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい（問1、問2、問3）。

ネットの過剰利用がもたらす「実体験の減少」

著作権の関係上，公表しません。

著作権の関係上，公表しません。

著作権の関係上，公表しません。

著作権の関係上，公表しません。

(出典) 養老孟司『子どもが心配 人として大事な三つの力』(株式会社 PHP 研究所、2022 年) 69—78 頁 問題文を記載するにあたっては、原文を一部改めた。

(注1) 高橋 高橋孝雄。慶應義塾大学医学部小児科主任教授。医学博士。1957 年生まれ。

(注2) 養老先生 養老孟司。東京大学名誉教授。89 年、『からだの見方』(筑摩書房)でサントリー学芸賞を受賞。1937 年生まれ。

(注3) SNS ソーシャルネットワーキングサービス。

(注4) 閾値 一般に反応や変化を生じさせるのに必要なエネルギーの最小値。

(注5) スポイル 損なう。使えなくする。台無しにする。

(注6) 山中伸弥先生 京都大学 iPS 細胞研究所名誉所長・教授。医学博士。1962 年生まれ。

問1 下線部①について、本文は「無言化」「孤立化」「実体験の減少」をそれぞれどのような意味で用いているか、本文に即して120字以内で説明しなさい（配点20%）。

問2 下線部②について、論者はなぜこのように考えるのか、本文に即して120字以内で説明しなさい（配点20%）。

問3 仮に「子どもの一日のインターネット利用時間を2時間に制限する。」という内容の法律案が検討されているとする。このような法律案について、あなたはどのように考えるか、本文の内容を踏まえて400字以内で述べなさい。なお、この問題は法的知識を問うものではない（配点60%）。

## 採点・評価基準 (具体的基準)

教科・科目名	小論文
実施学部・学科等	人文社会科学部 法 学科
出題のねらい	<p>問1 当該文章を読み解く上でポイントとなる点について、本文中からその内容を的確に把握し、これを表現することができるかどうか、ということを確認する設問である。</p> <p>問2 論者の考えを本文から正しく理解し、その内容を的確に整理・要約できるかを確認する設問である。</p> <p>問3 問1、問2を踏まえて、本文の趣旨を正確に読み取り、これに対して受験者の意見を展開させる設問である。受験者の文章読解力、表現力、論理的思考能力を探ることを狙いとしている。</p>
採点基準	<p>問1 「無言化」「孤立化」「実体験の減少」について、本文で述べられている内容を正しく理解し、的確に整理・要約できるかどうか、を基準とする。 配点 20点</p> <p>問2 論者が考える「子どもにとって本当の意味で良い環境」について、本文で示されている見解を正しく理解し、これを的確に整理・要約できるかどうか、を基準とする。 配点 20点</p> <p>問3 受験者が問題文の読解を通じて、論者の考えを理解し、それを踏まえて自らの意見を論理的かつ説得的に表現できているかどうかを基準とする。 配点 60点</p> <p>*いずれの設問ともに； ・誤字・脱字は1字につき1点減点(5点減点まで) ・字数オーバーは0点。また字数不足(半分未満)は減点の対象とする。</p>